（様式 １）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　FY2025

２０２５年度　名古屋大学若手育成プログラム

--------- ＹＬＣ (Young Leaders Cultivation) ------

申　　請　　書

**（原則、１０ポイント以上の文字を使用し記入すること。ただし、様式の改変は認めない。）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 応 募 枠 | ☑一般枠 | （右記の応募枠に該当する場合はチェックすること。） | □学内枠 □女性枠 □外国人枠 |
| 区分 （人社系・理工系・生命系より１つを選択すること。ただし、境界領域の研究分野の場合は２つまで選択可。）　　□人社系 □理工系 □生命系　　　　　　　　　　 （境界領域の場合）　　□人社系 □理工系 □生命系 |
| 応募者の専門分野\* （科研費の中区分あるいは小区分より１つ記載すること。） |
| 応募者の研究キーワード（任意。ただし、５件以内。） |
| 注意：\*の項目については、日本学術振興会（JSPS）が指定しているものを参考にそのまま記載すること。これらの項目情報が記載されたJSPSの資料は次のURLからダウンロードすること。URL: https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/03\_keikaku/data/r05/R5\_shinsakubunhyo\_all.pdf |
| 1. 応募者氏名（フリガナ） |
| 2. 研究提案課題名 |
| 3. 生年月日と２０２５年４月１日時点の年齢（西暦）　　　　年　　月 　　日 年齢： | 4. 国籍 |
| 5. 現在の身分および所属（職名、所属機関・部局・専攻等） |
| 6. 学位の名称とその取得時期　※根拠書類として、学位記のコピーを添付すること。 |
|  学位：　博士　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）　 | □ 本学□ 本学以外 | （西暦）　　　　　年　　　月　　　日 | □ 取得□ 取得見込 |
| 7. 学歴（高校卒業時から昇順で） |
|  |
| 8. 職歴（最も古いものから昇順で） |
|  |
| 9.（1）名古屋大学における受入教員の氏名、部局・専攻等、職位　 （2）着任後の兼務先（受入教員の現在の所属部局と異なる予定である場合は、明記すること。） |

|  |
| --- |
| 10. 研究提案課題の背景となる学術領域の説明提案課題の重要性や現在の課題について、０．５頁以内で異なる領域の研究者にも理解できるよう、平易な表現で記載すること。 |
|  |

|  |
| --- |
| 11．現在までの研究成果と10.で説明した学術領域における位置づけ　（1）これまでの研究成果　　（2）研究の特色・独創的な点　　（3）当該学術領域における研究成果の位置づけや意義、社会的インパクトについて、図表などを活用し、１．５頁以内で異なる領域の研究者にも理解できるよう、平易な表現で記載すること。 |
|  |

|  |
| --- |
| 11．現在までの研究成果と10.で説明した学術領域における位置づけ （続き）　 |
|  |

|  |
| --- |
| 12. これからの研究計画など　図表などを活用し、２頁以内で異なる領域の研究者にも理解できるよう、平易な表現で記載すること。(1) 研究の背景・目的　本研究計画を立案した経緯について、必要があれば参考文献を挙げて記載。(2) 研究計画　① 研究計画全体について、概説したのち各年度の研究計画を記載。　② 研究計画の期間中に異なる研究機関（国外の研究機関等を含む）において、研究に従事することを予定している場合はその旨を記載。(3)　研究計画の特色・独創的な点 (4) 波及効果 何を、どこまで明らかにしようとするのか、また、それによる波及効果について記載。 |
|  |

|  |
| --- |
| 12. これからの研究計画など （続き）　 |
|  |

|  |
| --- |
| 13. 研究業績　(1)～(6)の項目について、２頁以内で応募者が中心的な役割を果たしたもののみ記載し、該当がない項目は「なし」とすること。また、通し番号と応募者にはアンダーラインを付けること。(1)学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読の有無を区分して記載。査読中・投稿中のものはその旨記載。）　① 著者、題名、掲載誌名、発行所、巻号、pp開始頁－最終頁、発行年を記載。　② 採録決定済のものについては、それを証明できるものを添付。(2)学術雑誌等又は商業誌における解説、総説(3)国際会議における発表（口頭・ポスターの別、査読の有無を区分して記載。）　著者、題名、発表した国際会議名、場所、月・年を記載。なお、発表者に○印を付けること。(4)国内学会・シンポジウム等における発表　(3)と同様に記載。(5)特許等　出願中、公開中、取得を明記。ただし、出願中のもので詳細を記載できない場合は概要のみで可。(6)その他　受賞歴等 |
|  |

|  |
| --- |
| 13. 研究業績 （続き）  |
|  |

|  |
| --- |
| 14．ＹＬＣ教員としての抱負　０．５頁以内でＹＬＣ教員の使命と関連付けながら、さらに、海外での活動を視野に入れて、本学での経験を将来のキャリア・パスとどのようにつなげたいかについても記載すること。 |
|  |

|  |
| --- |
| 15. 応募者の大学院博士課程・博士後期課程在学時の活動に関する情報 |
| 博士論文のタイトル | 博士論文の指導教員名と審査大学・部局・専攻等 |
|  |  |

|  |
| --- |
| 16．在外研究活動　在外研究経験（国外から日本への留学も含む）について、研究内容・期間等を記載。加えて、これからの在外研究計画についても具体的に記載。なお、特に在外研究が必要ではないと考えられる分野の応募者は、その理由について記載すること　※高等研究院は、在外研究を奨励 |
|  |

|  |
| --- |
| 17. その他　（例：ライフイベント等による研究中断など） |
|  |